

2020年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及び、オリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会(共生社会)の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 鹿児島県 】

学校名【 中種子町立星原小学校 】

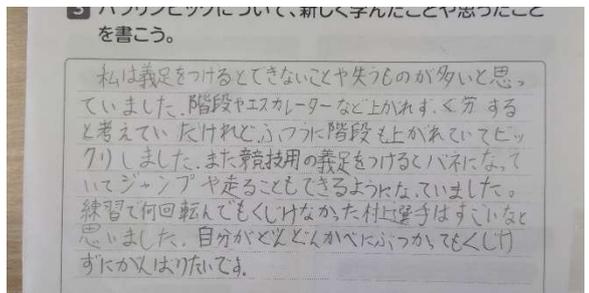
1 実践テーマ	I・II・III・IV・ V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	1年生2人, 2年生5人, 3年生5人, 4年生3人, 5年生2人, 6年生2人 教職員12人, 保護者3人 (計34人)
3 展開の形式	(1) 行事名「パラリンピックって何だろう」 ① 教科名(道徳科) ② 学年(全学年) ③ 内容(パラリンピックの価値) (2) 行事名「パラリンピックスポーツについて学ぼう」 ① 教科名(体育科) ② 実技体験 (3) 行事名「パラリンピアンの方の生き方・考え方を学び交流しよう」 ① 教科名(道徳科, 総合的な学習の時間) ② 学年(全学年) ③ 内容(パラリンピアン講演会)
4 目標 (ねらい)	○ オリンピックやパラリンピックの特徴や発展・意義や歴史について学び、スポーツに対する興味関心や生涯にわたってスポーツを楽しむ資質を育てる。 ○ パラリンピックスポーツを知りやってみることで、障害者理解だけでなく、友達を信頼したり尊重したりしあってクラスの雰囲気高め、インクルーシブな社会の形成に向けて役割を果たすことができる。 ○ オリンピアンやパラリンピアンのお話を聞き、諦めないことの大切さや挑戦することの尊さなどスポーツにおける生きがいや目標作りの意識を高める。
5 取組内容	(1) 「パラリンピックって何だろう」第1～6学年(道徳科) ア 「I'm POSSIBLE」を活用した学習 イ パラリンピック視聴(DVD鑑賞) ウ パラリンピックに関するクイズ   (2) 「パラリンピックスポーツについて学ぼう」第1～6学年(体育科) ア 「I'm POSSIBLE」を活用した学習 イ パラリンピック視聴(DVD鑑賞) ウ シットイングバレーボールの体験 (3) 「パラリンピアンの方の生き方・考え方を学び交流しよう」 第1～6学年(道徳科・総合的な学習の時間)11月10日(火) ア パラリンピアンによる講演会

講師「村上清加」(義足のアスリート選手) 競技 パラ陸上
 イ オリンピアン講話
 講師「村上健二」(村上清加さんの御主人) 競技 ボブスレー
 ウ 村上さんに質問タイム



6 主な成果

- オリンピック・パラリンピックに対する興味・関心が高まり知識が深まった。
- 学習を通して、オリンピック・パラリンピックの概念が変わったと答えている児童が多く、スポーツの意義を知り理解できるようになった。
- シットイングバレーボールという競技の体験を通して、相手の立場に立って物事を考えたりすることの必要性や、「誰でもできる。何ができるのか。」についても考えるきっかけとなった。
- パラリンピアンの前向きな生き方と努力・支えてくれる人への感謝の気持ちを知り、その偉大さに気付くことができた。
- スポーツで得られる感動や生きがい、健康の保持増進など児童それぞれの立場で捉え、生涯スポーツの意識向上を図った。



7 実践において工夫した点

- 本校の教育目標「夢や目標をもち、共に学び・共に伸びる児童の育成」の具現化に向け、オリンピック・パラリンピック教育とどのように関連を図れているかを意識した教育活動を行うようにした。
- 児童にとってオリンピック・パラリンピックを身近なものにするために、パラリンピックスポーツを体験するなどして興味をもって取り組めるようにした。
- オリンピック・パラリンピック教育の状況を便りなどで保護者に発信したり、講演会への参加を呼びかけたりした。

8 主な課題等

- オリンピック・パラリンピックが延期となったため、今回得た興味・関心を持続させていくための環境整備が必要となった。

9 来年度以降の実施予定

- パラリンピックを体感できる器具を取り入れ、より深い学びを実践していく。

